



○＜中国防空識別圏＞米国が「強い懸念」伝える

中国が戦闘機を緊急発進（スクランブル）させる目安となる「防空識別圏」を沖縄県・尖閣諸島の上空を含む東シナ海に設定したことについて、米政府は23日、中国に強い懸念を伝えたことを明らかにした。日本を含む同盟国や友好国と緊密に連携して対処する方針を示した。

○防空圏設定1週間 世界が非難 中国迷走

■無通告の進入に抗議せず／トーンダウン「平和維持」／米の反発は「誤算」分析も

中国が東シナ海に防空識別圏を設定したと発表してから30日で1週間を迎えた。地域の現状を一方的に変えようとする中国のやり方に対し、周辺国などは強く反発した。日米韓は中国に通告せず、圏内に航空機を進入させたが、中国軍はほとんど対応しておらず、“調整不足”だった可能性もある。国際社会の厳しい反応に対して中国外務省は声明のトーンを微妙に変えるなどしており、迷走しているようにもみえる。

防空圏設定で中国を非難する声は、日米にとどまらず、オーストラリア、韓国、台湾、東南アジアや欧州にも広がったことを受け、中国に態度の軟化がみられた。

中国外務省の秦剛報道官は11月25日の定例会見で、防空圏に韓国が遺憾の意を表明したことについて「中韓は友好的な近隣国であり、私たちは韓国側と対話を通じて地域の平和と安全を維持したい」と“弱気”とも取れる発言をし始めた。

さらに、26日から28日にかけて、米軍の爆撃機をはじめ、自衛隊機、韓国の軍用機も中国の防空圏に無通告で入ったが、中国軍は軍用機を緊急発進（スクランブル）させるなどの強制的な手段を取らなかった。中国外務省は各国に抗議すらしなかった。

同省関係者は「防空圏に対し各国の反応は予想よりも厳しいものがあつた」と打ち明ける。また、ある中国軍の研究者は「今の中国空軍は、日米韓の全ての進入機に対応するほどの実力はない」と話す。

○国内政治の失敗を隠すため注意を外に

北京の改革派学者は「習近平政権がこの時期に防空圏の設定を発表したのは、国内対策だ」と指摘した上で、「（共産党の重要会議である）3中総会で成果を出せなかった。山東省では多数の死傷者が出た事故が起き、国民の内政への不満を外に向けさせようと、日本たたきをやろうとした。しかし、周辺国をみな敵に回してしまい、米国を本気にさせてしまったのが誤算だった」と話している。

○中国が尖閣上空に「防空識別圏」ってどういう意味？ 「領空」との違いは？



〔図表〕領空と防空識別圏

領空は領海と異なり、無害通航権（敵対的であれば自由に通航してもよいという権利）が認められていない。このため領空を航空機が勝手に侵犯すれば、場合によっては問答無用で撃ち落とされる可能性がある。航空機のスピードは非常に速いので、領空侵犯が起こってから対応していたのでは間に合わない。

そこで各国政府は、領空の周囲に防空識別圏というエリアを設定し、この範囲に外国の航空機が勝手に進入した場合には、戦闘機がスクランブルをかけるようになっている。この空域に航空機を進入させても、国際法上の領空侵犯にはないが、敵対的行為であるとみなされる可能性がある。

○太陽に元気なし…寒冷化予兆 11年周期の磁場転換起きず、黒点も最少

太陽に異変が起きている。今年は太陽の活動が強くなったり弱くなったりする11年周期の中で、活動がピークになる年(極大期)に当たり、通常なら、太陽の北極と南極の磁場が入れ替わる「極域磁場転換」が起きるはずなのだが、いまだに起きていない。さらに、活動ピーク年には増えるはずの“太陽の元気のバロメーター”とされる「黒点」も今年は異常に少ない。今後、太陽は活動の低調期に入り、併せて地球も寒冷化すると指摘する専門家もいる。「全く元気がなくパツとしない。明らかに異変が起きている」。米航空宇宙局(NASA)の研究者、ジョナサン・サーテイン氏は先週、今年の太陽の活動を評して米メディアにこう語った。

○在宅勤務、政府後押しで本格導入の兆し 15年には1兆円市場

一部の業種や業務でしか利用されていなかった在宅勤務(テレワーク)が本格導入の兆しをみせている。安倍晋三政権が6月に景気対策としてIT(情報技術)政策の新戦略にテレワーク推進を盛り込んだほか、企業も東日本大震災をきっかけに災害時の事業継続の観点から再認識するなど、導入機運が高まっている。機器など関連市場の規模も2015年には1兆円を突破する見通しだ。

テレワークは働き方の多様化を目的に大企業を中心に一部で導入された。ただ、住宅事情や情報漏洩(ろうえい)の不安、生産性が上がらないなどの問題もあり、普及が進んでいなかった。ところが、安倍政権が子育て世代の女性の就業を促す効果などもあるとして、導入企業数を20年までに12年度の3倍に増やす目標を掲げた。高速通信網や無線接続環境が整備されたのに加え、スマートフォン(高性能携帯電話)など機器の浸透も追い風だ。

○11月からドラッグストア等でも国民年金保険料の納付が可能に

◆低迷する納付率改善に向けた対策

厚生労働省の発表によれば、平成24年度の国民年金保険料納付率は59.0%で低水準にある。

現在、厚生労働省では、未納者をその所得情報に基づいて、(1)強制徴収対象、(2)納付督促対象、(3)免除等申請勧奨対象に区分し、それぞれに対策を講じるとともに、その一部について「市場化テスト」として民間委託を行っている。

民間委託された対策の中に、保険料納付方法の

範囲の拡大をはかっているが、口座振替やクレジットカード納付の導入よりも利用者が増えているものとして、コンビニエンスストアでの納付やインターネットバンキング等による電子納付が挙げられ、特にコンビニ納付による24年度の利用件数は1,316万件で、前年度比プラス93万件となった。

◆納付窓口拡大で納付率アップを図る

上記のような結果を受け、今年11月1日よりさらに納付窓口が拡大されることとなり、駅構内の売店や一部のドラッグストア等、全国約2,100店舗で納付できることとなった。

具体的には、NEWDAYS、ドラッグセイムス、ツルハドラッグ(東北地区)、くすりの福太郎、スマイルドラッグ、ドラッグバイコー、アメリカンドラッグ、ベルマート、病院内売店である。

納付可能店舗には「MMK設置店」の表示があり、株式会社しんきん情報サービスのホームページでも確認することができる。

○応募者から評価される採用面接官

◆採用面接で重要なことは？

12月1日から就活が解禁となりましたが、面接を担当する人(面接官)は、応募者の態度・能力を評価しているつもりでいるが、実はその面接官自身も応募者からじっくりと観察されている。

人材採用コンサルティング会社の株式会社の調査では、今年4～5月に2014年度卒の学生を対象に「2014年度卒学生・就職活動振り返り調査」(349名が回答)を実施した。

この調査で「面接で志望度に影響すること」について尋ねたところ、「かなり影響した」項目の上位5つは下記の結果となった。

- (1)「面接官の態度・話を聞く姿勢」(67.3%)
- (2)「面接で自分自身の素が出せたかどうか」(47.6%)
- (3)「面接官の話を促し方」(46.1%)
- (4)「学生からの質問に対する面接官の受け答え」(45.6%)
- (5)「面接官の人选」(42.1%)

上記のように、応募者の志望度に最も影響するのは「面接官の態度・話を聞く態度」であり、企業としては面接官の育成が急務である。

附録 脳梗塞の発症の前に早期発見しよう

(協会けんぽ神奈川支部メールマガジン 第36号)
今年も早いものであと一ヶ月、なにかと忙しい師走ですね。

この時期は、血圧が高い人にとって寒い冬は少し注意が必要な季節です。

寒くなると体温を逃さないように血管が収縮するため、血圧が上がりがやすくなります。

その他、運動不足や忘年会・新年会など飲酒の機会が増えることで、血圧が上がりがやすく、脳卒中になりやすい時期です。

脳梗塞は脳の血管が詰まり脳細胞が壊死し、最悪の場合、命を落としたり、助かったとしても深刻な後遺症を残すことが多い病気です。

わずかな前兆・前触れを見逃さずキャッチできるかどうかは脳梗塞のカギになります。

高齢者の脳梗塞の危険因子は、高血圧、喫煙、脂質異常症状、糖尿病、加齢などといわれていますが、この中でも高血圧と加齢は特に注意が必要です。血圧が高いと血管が痛みやすく、脳梗塞が起こりやすくなります。

また、女性の場合は女性ホルモンの分泌が減少し、リスクが高まります。

脳梗塞の前兆を見逃さない！これが大切な家族を脳梗塞から守る最大のポイントなのです。

☆☆脳梗塞チェック☆☆

- 睡眠不足、ストレスの発散ができていない。
- お風呂やトイレが寒いと感じる。
- 野菜が嫌い。
- 家族に脳卒中の者がいる。
- 肥満である。
- 運動をしない。
- 塩辛いものが好き。
- 夕食後水分を取らない。
- 肉中心の食生活である。
- お酒を飲みすぎる。
- ヘビースモーカーである。
- 定期健診を受けていない。

この項目に当てはまるチェック数が多いだけ脳卒中の危険性大です。

☆☆自分で計れるチェック体操☆☆

■ その1

手のひらを上にして両腕を前に出します。
次にそのままの状態指を開き、10秒間目を閉じます。

10秒後目を開けた時、腕が下がっていなかったら脳梗塞の可能性は低いです。

■ その2

紙に鉛筆で5ミリ間隔の渦巻きを5周くらい書いていきます。

次に違う色のペンで先ほど書いた渦巻きの間を両側の線に触れないよう

にしてなぞり、もうひとつの渦を5秒以内に書いてください。

2箇所以外重なった部分があったり、はみ出していたりしたら大脳や小脳に隠れた脳梗塞がある疑いがあります。

一度確かめて前兆を調べてみるといいでしょう。他に脳梗塞かどうかを判断する方法もあります。

<FASTテスト方法>

F：顔の麻痺

口を広げてイーと言い、口角の片側が上がらなければ要注意！

A：腕の麻痺

手の平を上にして両腕を肩の高さまであげて目をつぶってキープ。片腕が下がってきたら要注意！（詳細は上記参照）

S：言葉の障害

短い文を言ってみる。

例えば、「太郎が花子にりんごをあげた」などが言えるかどうかをチェック。

T：すぐ受診

FASTテストのどれか1つでもできなければ、即座に救急車を呼ぶ。

脳梗塞は発症からどれだけの時間が経過しているか、治療は時間との勝負なのです。

日ごろから体の管理をしっかりし、少しでもおかしいなと疑問に思ったら病院へ行き検査することが望ましいです。定期的に健康診断を受けることも予防方法の一つですね。

それでは、よい年末年始をお過ごしください。

(参考資料)

ストップ！脳梗塞！見逃しやすい脳梗塞の前触